

# 発達障害者の就労と就労支援を考える

NPO 法人 NECST

〒272-0034 千葉県市川市市川 1-12-20 トノハタビル

## 助成事業の概要

**<実施目的>** 発達障害の特性を理解し支援方法を学ぶ場を提供し、支援者を増やす。直接支援をする福祉関係者だけでなく、当事者・家族・雇用側の企業・学校関係者・医療関係者など、それぞれの立場に必要な情報を提供し、発達障害者の就職を促進し、彼らが力を発揮できる場を増やす事を目的としています。

**<実施時期>** 平成28年10月28日（金）

**<実施場所>** 有楽町朝日ホール スクエア  
東京都千代田区有楽町2-5-1  
有楽町マリオン11階

**<内容>** 講演およびシンポジウム

第1部 「大学生の就活の“今” ～発達障害と  
いつ、どう向き合うか～

第2部 「発達障害の支援とは」 ～治す？変え  
る？何をする？～

第3部 メインシンポジウム「若者 × 発達障害  
× 就職」 ～誰に何が求められているのか～

第4部 「発達障害者を雇用するとは」 ～企業の  
現場で起きている課題と未来～

各部とも、発表者の講義、シンポジウム、会場と  
の質疑応答を行った。

講師およびパネリストについては、研修会アジェ  
ンダを参照。

## 事業の成果

**<目的達成度>**

当事者・家族・企業・学校・医療・支援機関、そ

れぞれの立場において、お互いの共通点・相違点を認識しこれからの課題を見つけることができ、パネリスト同士そして会場も含め、違う立場からの意見や現状報告を聞くことが重要であることを再認識した。

「発達障害」という目に見えない障害をどのようにとらえ、理解し、付き合っていくか、そのポイントを参加者が個々に見つけることができ、この研修の目的は達成できたと感じている。

**<成果と課題>**

当事者・家族・企業・学校・医療・支援者が一堂に会することは少なく、貴重な場を作ることができたことは、大きな成果である。地域社会での暮らしには様々な要素があり、全体を知らないと進み方を間違えてしまう恐れがある。広い視野をもって「発達障害」と向き合う必要性を伝えることができたことも大きな成果と言える。

また、就労支援を行っている私どもにとって、企業の方々の参加を得られたことも障害者就労の可能性を広げるものである。

反面、一つの面を掘り下げることができなかつたと感じている。

しかし、一度にすべてを網羅することはまず不可能と思う。今回は広く全体を伝え、次に細部を伝えていくことが望ましい形と考える。誰に何が必要なのかを知ることができたので、今後の展開に活かしたい。

参加者にもお伝えしたが、助成いただいたこの機会をスタート点とし、今後も研修会を継続していきたいと思っている。

### ＜参加者の感想＞

参加者は101名と目標を少し下回ったが、皆さんの熱い気持ちが伝わる研修だった。

アンケートの結果、全体の満足度は85%以上（※5段階評価の選択肢から算出）であった。

以下に代表的な自由記述をご紹介します。

「医師、企業、大学の話を一度に聞いたことは、大変参考になりました。」

「医療の診断の意味、医療との付き合い方について良くわかった。」

「当事者が困り事を語る重要性、障害受容の難しさについてよくわかりました。」

「企業によって採用の仕方も雇用後の仕事の仕方もさまざまに違うということを知れてよかった。」

の学生が多くみられるのが現実である。

今回参加いただいた学校関係者、様々な取り組みを行っている学校などと連携し、彼らが社会人として育ていかれるような支援を行ってきたい。

## ■ 成果の広報、公表

法人のホームページにて広報の準備中である。

この事業成果レポートと当日のアジェンダおよび発表資料を合わせて報告書とし、参加者の声の一部を掲載する予定である。

また、後援団体である「地域精神保健福祉機構コンボ」での成果報告を検討している。

## ■ 今後の展開

課題にも挙げたが、今後は「学生対象」「支援者対象」「企業対象」それぞれの研修の継続をしていきたいと考えている。助成をいただいたことで、多分野の講師を招聘することができた。このような多岐にわたる研修を実施できたことは、当法人が「発達障害」を伝え就労を支援するうえで大きな力となるものであった。

この成果を活かし、これからは小規模で参加型の研修を行いたい。参加者個々の課題を話し合えるような場を提供したいと思う。

また、学生の参加は少なかったが、グレーゾーン